

1. 被害の概要

昭和32年7月25日、諫早市は未曾有の大水害に直面しました。

25日の正午以降に雨脚が強まり、市内中心部を流れる本明川の上流で土石流が発生し、川が氾濫しました。本明川にあった石造の眼鏡橋は、その頑丈さゆえに土石流をせきとめ、市街地への被害をさらに拡大させてしまいました。

このことは写真のインパクトも強く広く知られていますが、その他にも、そもそも被害を受けやすい地形であったこと、この日は想定を超える雨量であったこと、その雨に対して川幅が足りず、溢れ出てしまったこと、また夕方に一時雨脚が弱まったため市民に油断が生じたこと、停電のため避難勧告・指示が十分に伝わらなかったことなど…様々な原因により大水害となりました。

結果的に、諫早市では630名もの尊い命が奪われてしまいました。

このことを教訓に、本明川の現在における治水計画や防災対策が実行されています。

諫早大水害の概要について、パネルをご覧ください。

あの夏の雨から65年



ふるさとの川、
本明川の「防災・減災」について、
ごいっしょに考えませんか？

諫早大水害では多くの 尊い命が失われました。

■ 諫早市街部における町別の死者・行方不明者数



諫早大水害で濁流が押し寄せた範囲

出典：諫早大水害20周年復興記念誌
※多良見郷土史に記載なし。飯盛0人

諫早大水害の被害状況：山津波・土石流

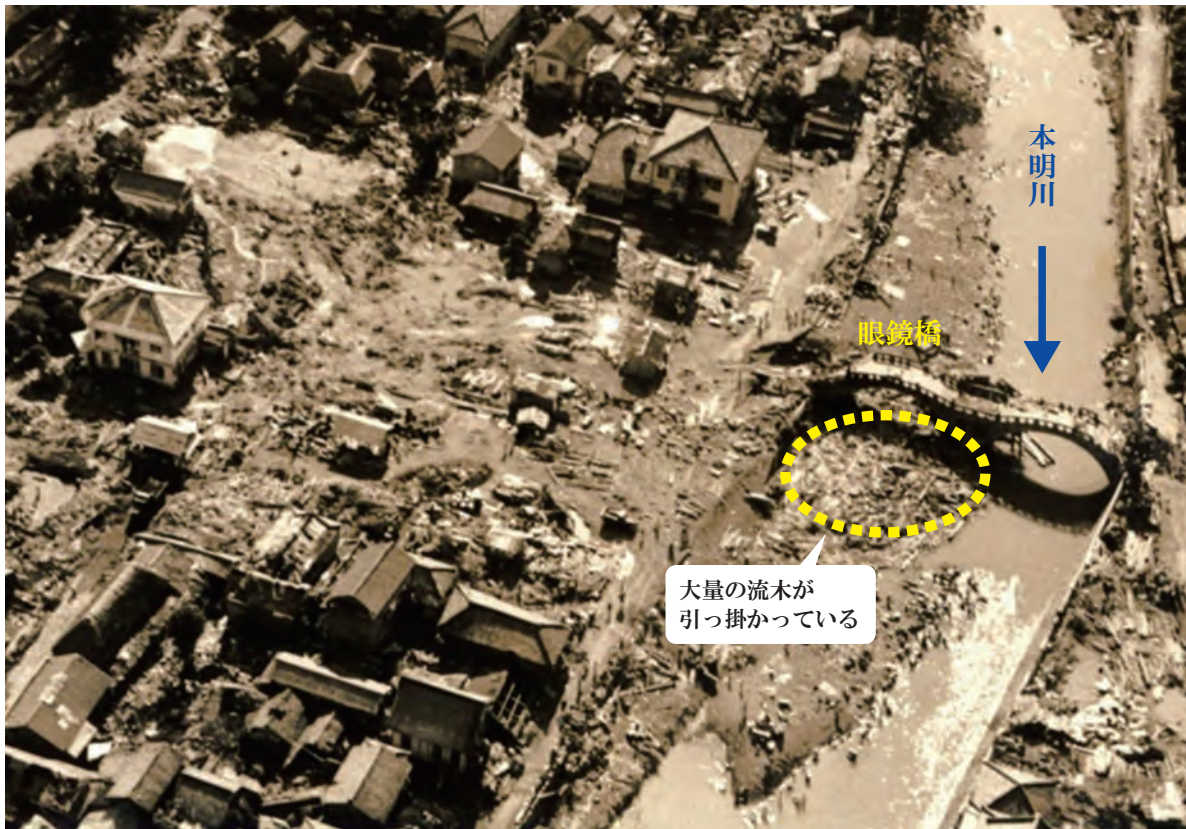


■上流から押し寄せた山津波

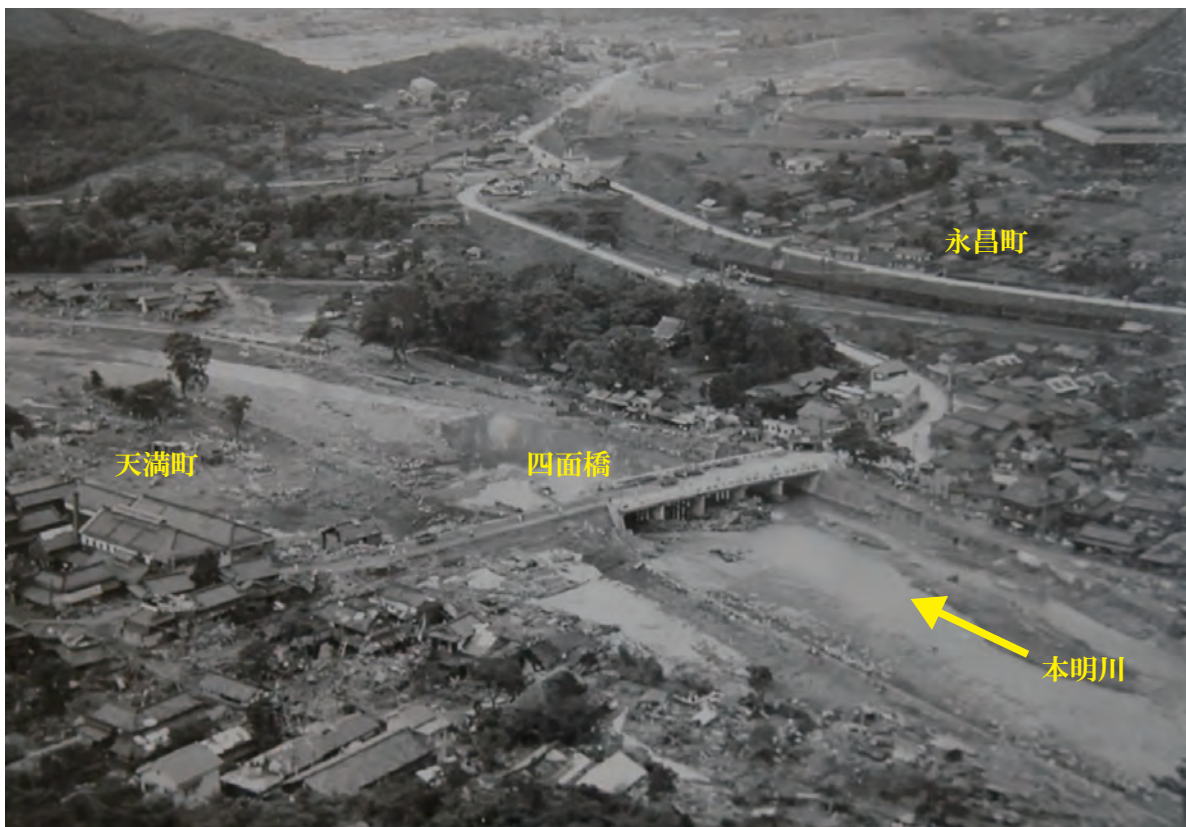


■校舎の半分が流された本野小学校（写真提供：諫早市）

諫早大水害の被害状況：眼鏡橋と四面橋



■眼鏡橋付近（下流から上流を望む）

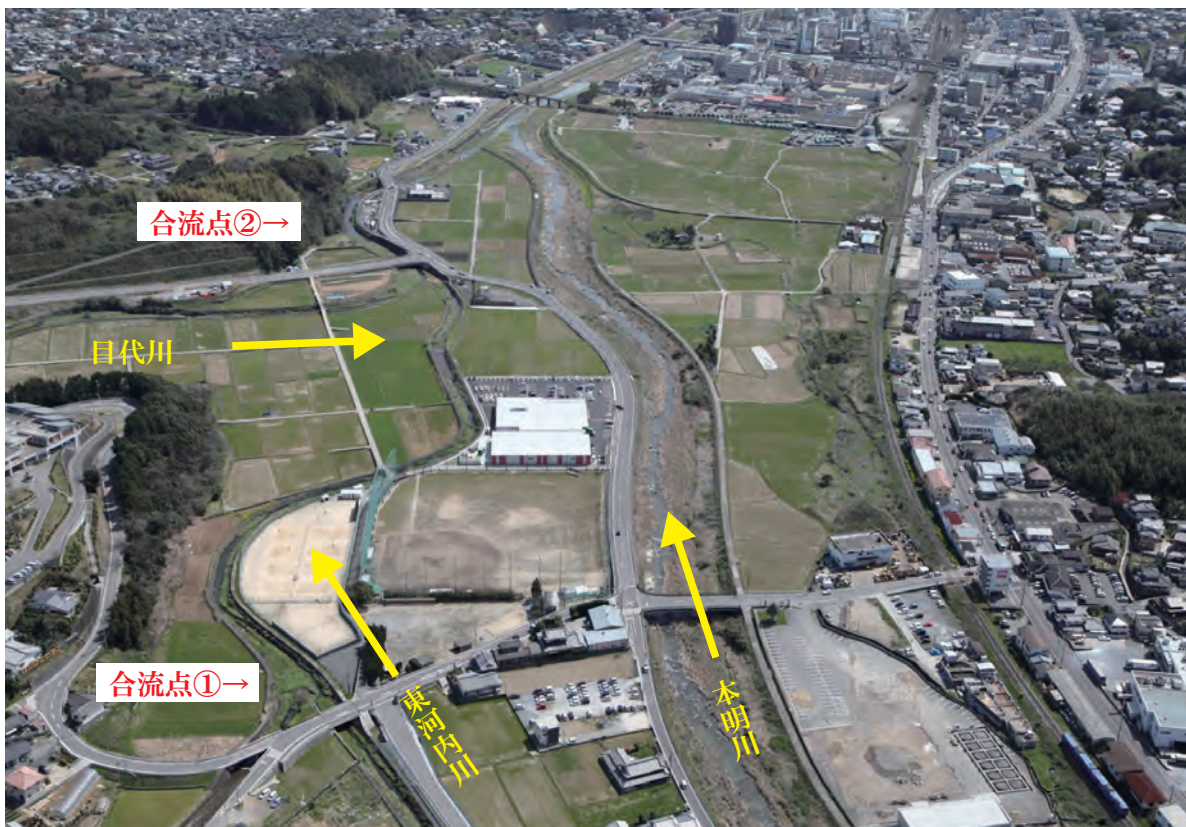


■四面橋付近（上流から下流を望む）

水害直後と現在：本明町付近

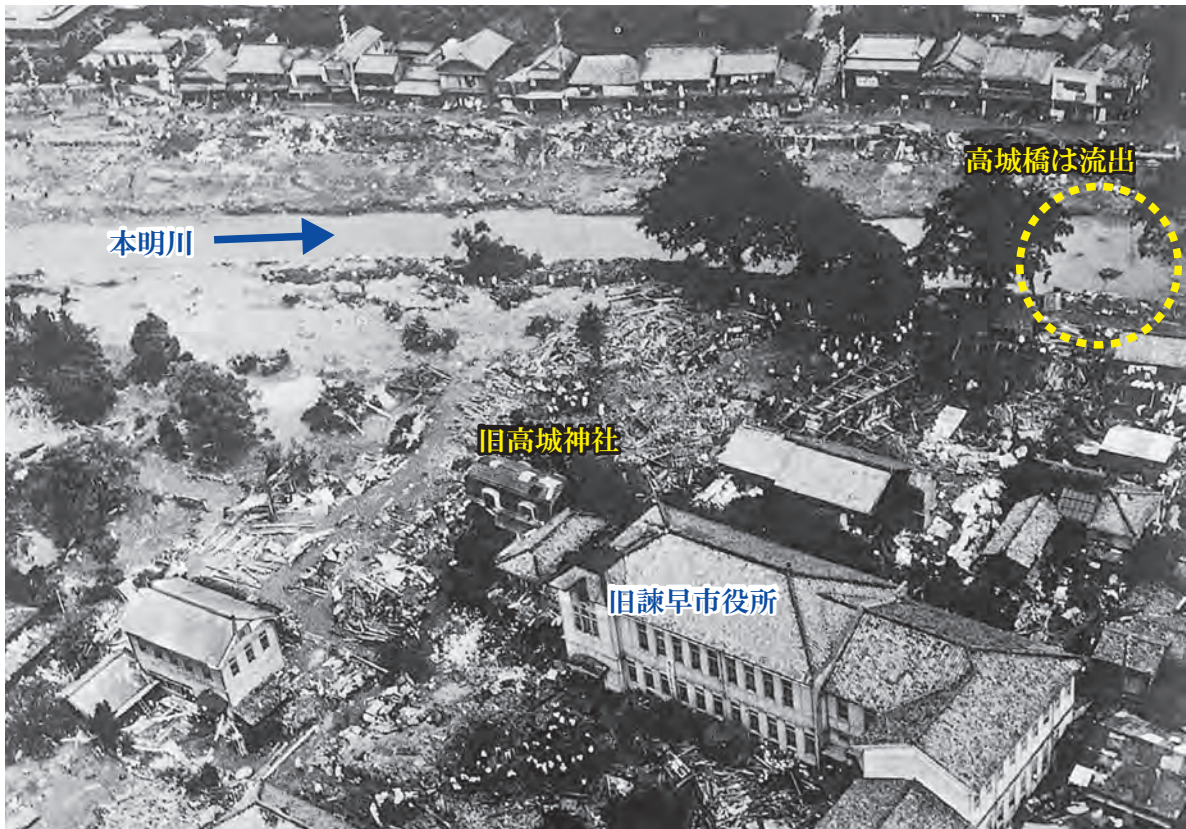


■昭和32年撮影



■平成27年3月撮影

水害直後と現在：高城橋付近

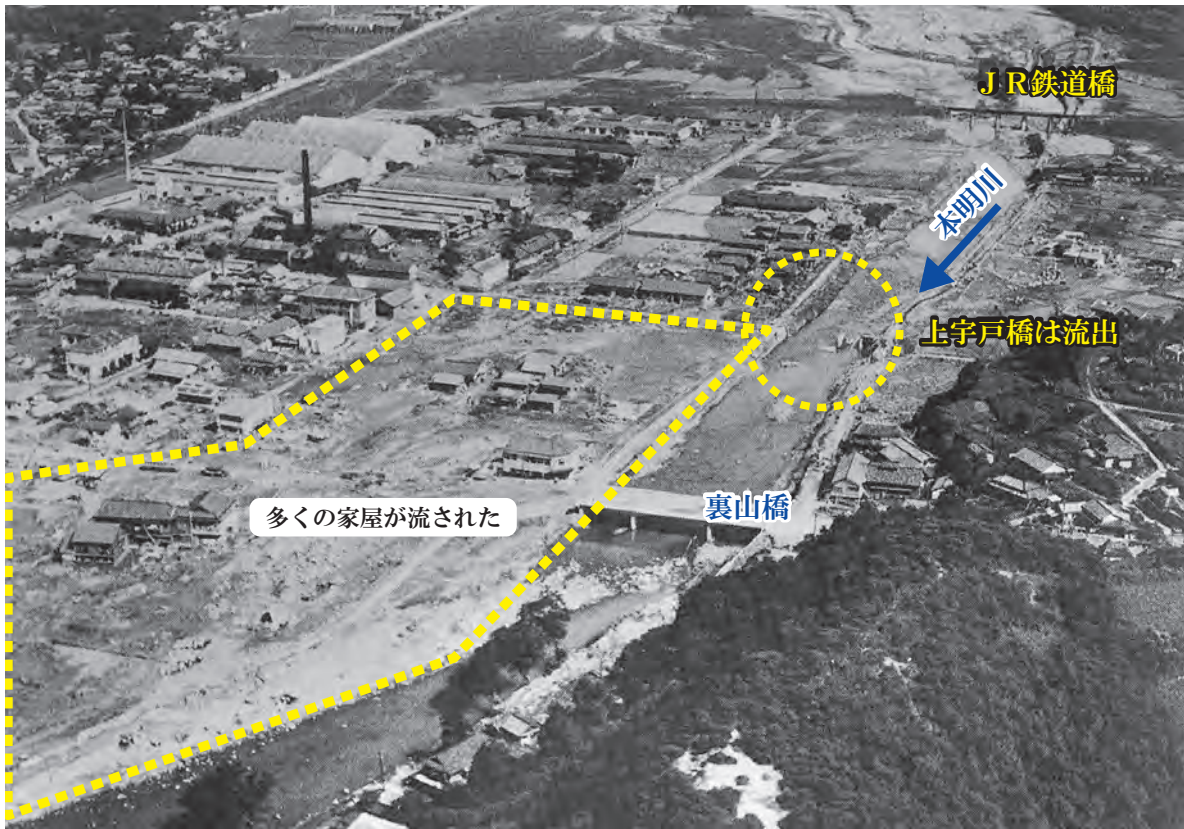


■昭和32年撮影

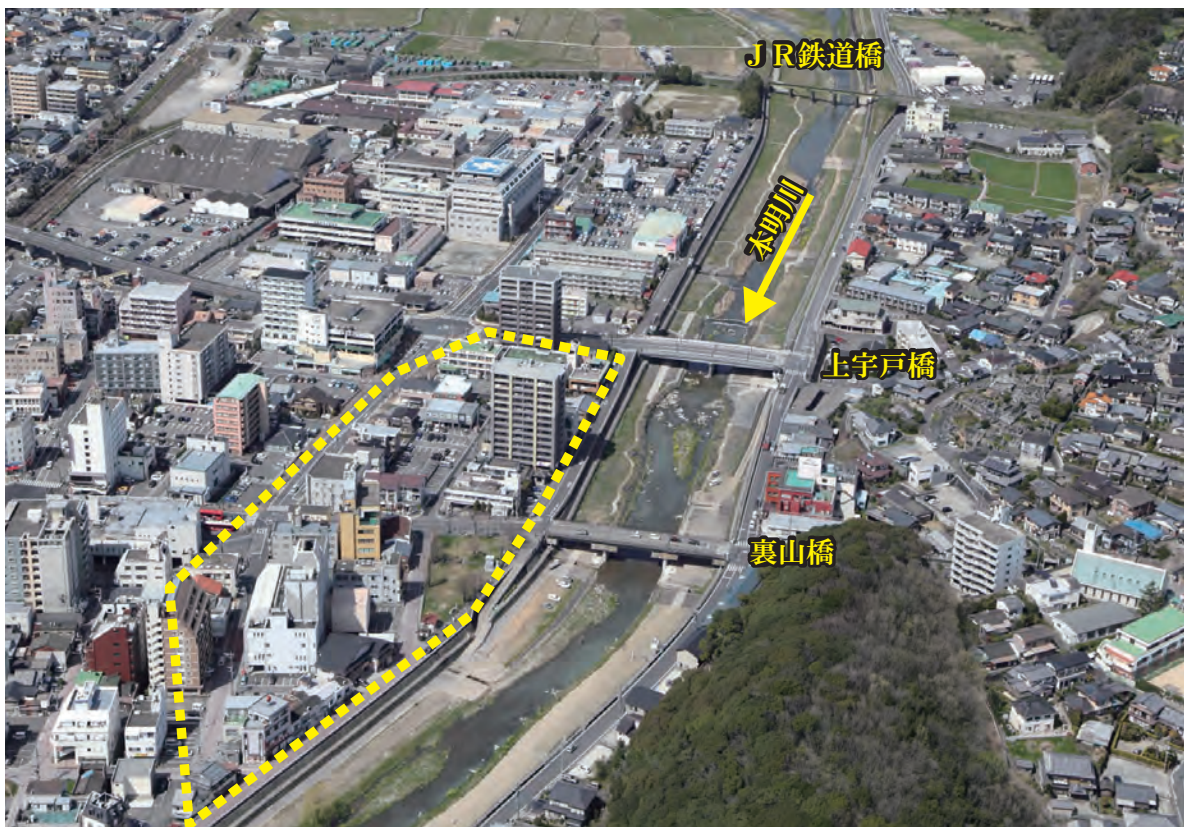


■平成27年3月撮影

水害直後と現在：裏山橋付近



■昭和32年撮影



■平成27年3月撮影

水害直後と現在：本町十八銀行付近



■昭和32年撮影



■平成26年7月撮影

水害直後と現在：八天町西日本シティ銀行付近



■昭和32年撮影



■平成26年7月撮影